

なかつか 亮



73回目の原爆の日に、非核への思いが強まります

昨年、国連で初めて核兵器を禁止する国際条約が成立し、各国の署名・批准が始まるなか、広島・長崎では73回目の「原爆の日」を迎えました。

私は今年で区議になり15年目を迎えますが、この間「私、実は被爆を経験しているの」「広島近くで、あのおぞましい光景は今でも目に焼き付いている」と広島・長崎の事を何人もの品川区民の方から直接、貴重な話を聞く機会がありました。

ある方は「出身地を隠し、戦後は息をひそめて品川に暮らしてきました。身体に残る火傷の跡。買い物をする時や人と会う時は、原爆の爆風で失った小指を隠しながらの生活。あの日、私は広島にいました」と。強い差別や偏見の中、子どもが結婚する際にも話したせなと苦しい胸の内を伺いました。

また近くで被爆者を見た方は「船で全身火傷の大人、子どもが大勢、運ばれてくる。(裏)

同じ過ちは繰り返させません 品川から核兵器のない世界を 非核平和都市品川宣言をいかした区政運営こそ

船から兵隊さんが被災者の腕と足をもって運んでくる姿から、もう息が無いんだとわかった。もはや救護ではなく人間が無残な姿で次々と積み上げられていく。あれが人間なのか。その光景は、今でもはっきり覚えていて」と。

非核平和宣言品川

被爆者や戦争体験者が高齢化する中、戦争の事実を後世に伝える努力とあわせ、核兵器も戦争もない世界の実現が急がれます。

品川区は昭和60年に非核平和都市品川宣言を行い、その内容は「我われは、いかなる国であれ、いかなる理由であれ、核兵器の製造、配備、持込みを認めない。持てる国は、即時に核兵器を捨てよ

と」と記しました。この宣言に沿った区政運営は当然の区の姿です。

ところが現在の品川区長は核兵器禁止国際条約への賛同や、日本政府への批准の働きかけについて「行う考えはない」と拒否。また昨年、国際条約の実現に貢献しノーベル平和賞を受賞したICANへの歓迎を求めた際も「コメントは差し控える」との態度です。

先駆的な宣言をもちながら被爆者や国際的な願いに応えようとしていない、区長の姿勢は到底、認められるものではありません。

品川からも核兵器と戦争のない世界を作るため、今こそ区政を変えたいです。ご一緒に力をあわせましょう。

記録的な猛暑に「クーラーが古い」「電気代が恐ろしい」の声 エアコン設置、電気料金に補助制度導入を緊急要望

気象庁も「1つの災害」と発表する記録的な猛暑。荒川区では高齢者や障害者、子どもがいる世帯に対し、上限5万円のエアコン設置助成を緊急発表し、7月末より受け付けを開始しました。

品川区内では7月に熱中症による緊急搬送が94人と深刻な事態。区民からは「古いクーラーを取り換えたいが費用がかさみ、躊躇してしまう」「エアコンをつけたいが、電気代が不安で、できるだけ控えている」と声が寄せられています。

そこで、猛暑から区民の命と健康を守るため共産党区議団は「エアコン設置と電気料金への補助制度の実施を」と8月3日に品川区に緊急要望（左写真）。対応した副区長は「熱中症への対策は考えなければならない」と答えました。



要望書を渡す7名の区議団（中央：なかつか亮）



なかつか亮プロフィール 1975年品川区西大井生まれ／42歳／03年に27歳で初当選し、総務、区民、厚生、建設、文教と区議会5常任委員会を経験／現在、行財政特別委員会委員長／区議4期／家族：妻／好きな事：夕食作り、旅行

